

平成25年産 秋冬野菜の需給・価格の実績

<概要>

1. 気象

- 11月は低気圧や冬型の気圧配置の影響で、北・東日本日本海側では降水量がかなり多かった。また、気温は、上旬は全国的に高かったが、中旬以降は寒気が流れ込み、東・西日本と沖縄・奄美では平年を下回る日が多かった。さらに、中旬は冬型の気圧配置が強まり、北日本日本海側の降雪量は多かった。
- 12～2月は、東日本と沖縄・奄美では、1月下旬から2月初めを除いては寒気に覆われることが多く、気温は低かった。東日本では3年連続の寒冬となり、北・西日本では平年並みとなった。また、上空の強い寒気の南下は一時的で、日本海側の降雪量は北日本の山沿い等を除いて全般に平年を下回ったところが多く、特に北陸地方の平地では平年を大きく下回った。一方、2月上旬と中旬にそれぞれ1度、低気圧が発達しながら日本の南岸を通過し、太平洋側では広い範囲で大雪となった。特に、14日から16日にかけては、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を上回る記録的な大雪となった。

2. 生産・供給

- 冬キャベツは、千葉産が低温の影響から、愛知産が夏場の高温と少雨の影響から小玉傾向となり、全期間を通して前年を下回る入荷となった。特に12月は11月中旬以降の低温の影響から大きく減少した。
- 秋冬だいこんは、11月は関東産への切り替え時期となり、千葉産及び神奈川産が台風の影響から生育が遅延したため、前年を下回るもその他の月は低温等の影響から前年を下回る旬があるものの、入荷はおおむね順調であった。
- たまねぎは、11月から1月までは、主産地の北海道産が生育期の低温、少雨等により小玉傾向となったことから、前年を下回った。2月は、静岡産及び外国産（中国、アメリカ）が前年に比べて多かったことから、前年をかなり上回った。
- 冬にんじんは、低温、降雪の影響で少なかった1月を除いて、主産地が夏場の高温による定植遅れ、低温等により小ぶり傾向となったことから、前年を下回った。
- 秋冬はくさいは、10～11月は、長野産及び茨城産の生育は概ね順調で前年をかなり上回った。12月は、茨城産が11月中旬以降の低温により小玉傾向となるも、生育は順調で前年並みとなった。1月は、前年が降雪の影響で少なかったこと、2月は兵庫産が生育順調で前年を上回ったため、それぞれ前年をやや上回った。
- 冬レタスは、前年が低温等の影響で少なかったことから、全期間で前年を上回り、12月を除く平年も上回った。12月は、主産地が11月中旬以降の低温により小玉傾向となり、少なかった前年をやや上回るも、平年をかなり下回った。

3. 需要・価格

- 冬キャベツは、11月は愛知産の出荷遅れに加えて、前年が安値であったこと、12月は低温による小玉傾向から入荷量がかなり減少したことから、前年を大幅に上回る価格となった。1月以降は好天にも恵まれ生育が回復し、価格も平年に近づくも前年を上回った。
- 秋冬だいこんは、11月までの価格は、前年及び平年を大幅に上回った。10月は入荷が前年を上回るも、前月までの台風による高値の状況を受けたこと、11月は産地の切り替わり時期で後続産地に生育遅延であったことから、前年及び平年を大幅に上回った。12月は、千葉産が降雨により生育が回復したこともあり、平年をやや上回る価格に落ち着いた。1月以降は、主産地の生育が回復した等から、1月は平年並みとなり、2月は前年及び平年をかなり下回った。
- たまねぎは、1月までは北海道産が少なかったことに加え、加工筋からの需要もあり、前年及び平年を大幅に上回った。2月は、1月下旬から横ばいとなり落ち着いてきたものの、前月までの高値を受けて前年及び平年を大幅に上回った。
- 冬にんじんは、12月までは主産地の生育遅延、低温により小ぶりとなったこと等から、前年及び平年を大幅に上回った。1月は、引き続き小ぶり傾向となり、入荷少なかった前年を上回るも、価格は前年を上回り、平年を大幅に上回った。2月は、降雪による収穫作業の遅れから、再び入荷が前年を下回ったため、前年及び平年をかなり上回った。
- 秋冬はくさいは、10月は、前年がO157の影響で安かったこと、寒さで鍋需要が出始めたことから、前年を大幅に上回った。11～12月は気温の低下とともに需要が増え、前年の安値もあり、前年及び平年を大幅に上回った。1～2月は、気温が上昇して需要も落ち着いたため、平年を下回った。
- 冬レタスは、11月は、茨城産が小玉傾向となり、加工・業務用需要が活発になったこともあり、前年及び平年を大きく上回った。12月は、主産地が低温等で小玉傾向となったが、前年の入荷が低温等の影響で少なかったこともあり、前年を下回るも、平年を大幅に上回った。1月以降は、生育が回復したこともあり、前年及び平年を下回った。

1. 平成25年産冬キャベツの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
冬キャベツ (11～3月)	<ul style="list-style-type: none"> 作付面積は、千葉及び愛知は前年並み、神奈川は来 年3月出荷分の作付けを推進しているため、前年よ りやや増加する見込み。 生育状況は、台風26号等の影響が一部みられたが、 概ね平年並み。愛知は台風により一部の地区で定植 直後の苗が強風の影響で根切りがみられた。 出荷量は、11月は好天により大玉傾向で出荷が多か った前年を下回り、12月から2月は前年並みとなり、 3月は遅れていた出荷分と通常の出荷分が重なり、 出荷量が多かった前年を下回る。 加工・業務用においては、九州の主要産地で病害等 の発生により出荷が少ないことが一部で見られるこ とから、今後は卸売市場からの調達の動きなども想 定され、卸売市場の価格にも影響する可能性がある。 また、近年、年明けの価格が高値となっているため、 すでに中国産を確保する事業者もみられる。 価格は、台風の影響による冠水等で出荷量が減少す るため、11月は安値であった前年を上回り、12月か ら2月は前年並みとなり、3月は安値であった前年 を上回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>11月は、千葉産は低温の影響から小玉傾向となり、愛知産は夏の高温と少雨の影響から出荷開始が遅れたため、前年に比べてやや入荷増となった。12月は、愛知産が夏の高温、少雨の影響から根の張りが悪く小玉傾向となり、千葉産が低温で上旬の入荷が前年を大きく下回ったことから、前年に比べてかなり下回った。1月は、千葉産が好天により生育が回復し、低温で少なかった前年を大きく上回ったが、愛知産が低温の影響から小玉傾向が続き、出荷が多かった前年の7割程度となったため、前年に比べてやや下回った。2月は愛知産の小玉傾向が続き前年を下回ったものの、千葉産は降雪の影響もなく前年を上回ったことから、前年及び平年並みとなった。</p> <p>期間全体としては、前年をわずかに下回り、平年をやや下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:95)</p> <p>(価格)</p> <p>11月は入荷がやや少なかったものの、前年が平年を下回る安値であったことから、2倍以上の高値となった。12月は、低温の影響で入荷が少なかったことから、前年及び平年を大幅に上回った。1月は、入荷が回復したこともあり、12月に比べて価格は落ち着いてきたものの、前年及び平年をかなり上回った。2月は主産地が小玉傾向は続くものの、降雪の影響もなく順調な出荷となったことから、前年をやや上回るも、平年をやや下回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:141)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。(以下同じ。)

(参考1) 平成25年産冬キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

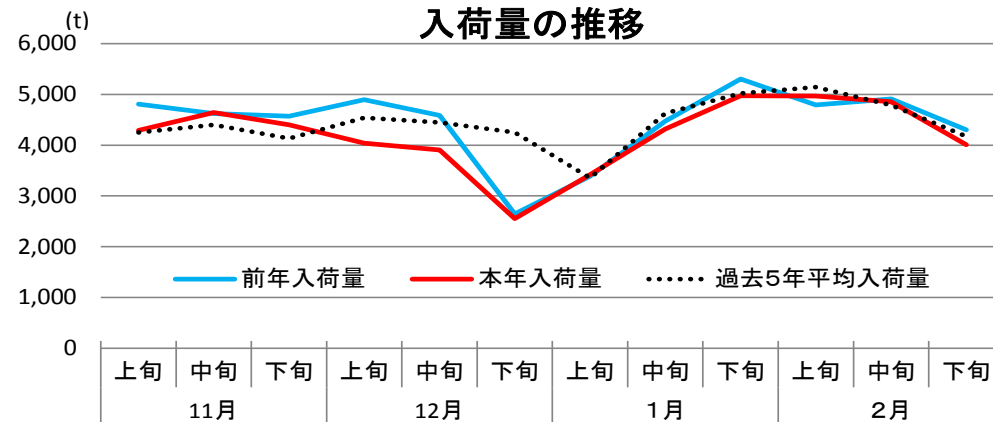
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	89	100	96	83	85	96	101	97	94	104	99	93	95
	95			89			97			99			
過去5年平均比	101	105	106	89	88	60	102	93	99	97	101	96	98
	104			92			98			98			

卸売価格対比

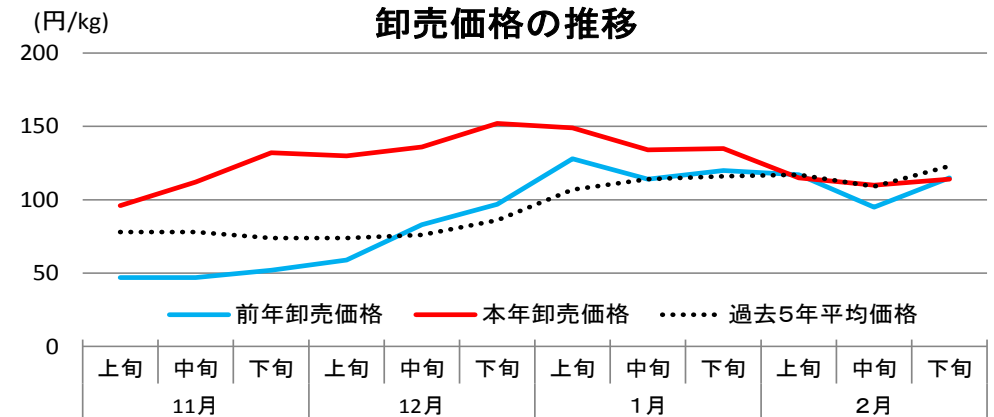
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	204	238	254	220	164	157	116	118	113	98	116	99	141
	231			177			115			104			
過去5年平均比	123	144	178	176	179	177	139	118	116	98	101	93	130
	147			177			122			97			

(参考2) 平成25年産夏秋キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

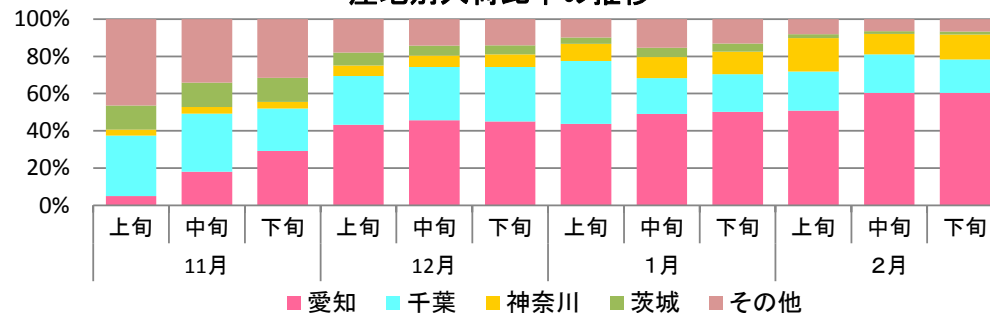
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



資料：東京青果物情報センター

2. 平成25年産秋冬だいこんの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
秋冬だいこん (10～3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、千葉、神奈川、徳島は前年並みの見込み。 ・生産状況は、千葉は台風26号の影響により、特に年末年始の露地物の出荷量が減少する見込み。神奈川は、概ね平年並み。徳島は、概ね順調な生育・出荷となる見込み。 ・出荷量は、11月は前年並みとなり、12月は前年を上回り、1月及び2月は前年並みとなり、3月は前年を下回る見込み。 ・価格は、台風の影響が少なく、11月は前年並みの出荷量となるものの、安値であった前年を上回る見込み。年末年始は、前年の12月及び1月が高かったことから、前年を下回り、3月は生育が回復し出荷量が多く、安値であった前年を上回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>10月は、青森産が台風、長雨で中旬まで少なかったが、北海道産の生育が順調で平年を上回ったため、前年に比べてやや入荷増となった。11月は、主産地が関東に切り替わり、千葉産及び神奈川産が台風の影響による生育遅延で入荷が少なかったため、前年に比べてわずかに入荷減となった。12月は、神奈川産が台風の影響で肥大が進まず、平年を下回るも、千葉産が降雨により遅れていたものが回復したため、前年に比べてやや入荷増となった。1月は千葉産及び神奈川産は、低温、少雨の影響があったものの、前年が降雪等で少なかったため、前年に比べてわずかに入荷増となった。2月は、上旬までは順調であった、中旬の降雪で少なくなるも、下旬は収穫作業も回復し増加したことから、前年に比べてやや入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともにやや上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:103)</p> <p>(価格)</p> <p>10月は、入荷は前年をやや上回ったものの、前月の台風による高値の状況を受け、前年及び平年を大幅に上回った。11月は、産地が切り替わり上旬は台風の影響で生育が遅延したこと等から、前年及び平年を大幅に上回った。12月は、千葉産は降雨により遅れていたものが回復したこともあり、平年をやや上回る価格まで落ち着いた。1月は、千葉産が回復し、低温で少なかった中旬を除いて降雪等で少なかった前年を上回ったため、平年並みとなった。2月は、千葉産及び神奈川産とも生育が回復したことから、中旬の降雪で収穫作業ができなかった中旬を除き、入荷が前年をかなり上回ったことから、価格は中旬を除いて前年及び平年をかなり下回った。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり上回り、平年を大幅に上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:107)</p>	

(参考1) 平成25年産秋冬だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

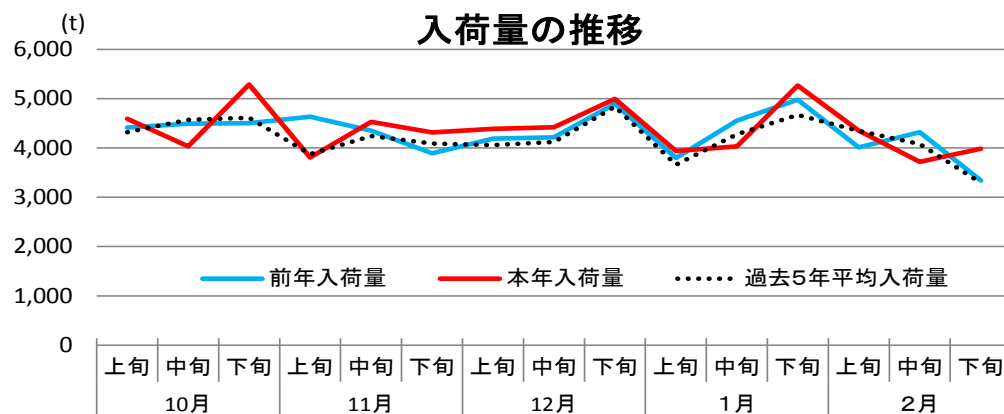
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	104	90	117	82	104	111	105	105	102	104	89	106	108	86	119	103
	104			98			104			105			103			
過去5年平均比	106	88	115	98	107	105	108	107	103	108	94	113	100	91	121	105
	103			104			106			107			103			

卸売価格対比

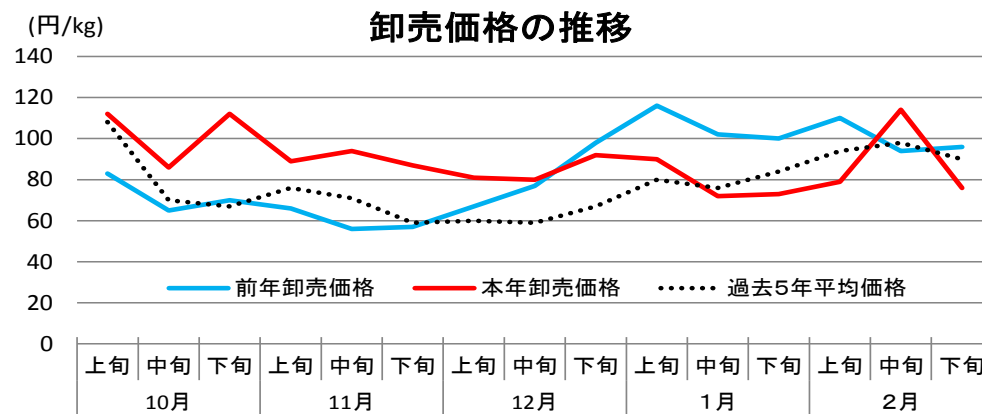
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	135	132	160	135	168	153	121	104	94	78	71	73	72	121	79	107
	144			150			104			74			89			
過去5年平均比	104	123	167	117	132	147	135	136	137	113	95	87	84	116	84	115
	128			130			135			98			94			

(参考2) 平成25年産秋冬だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

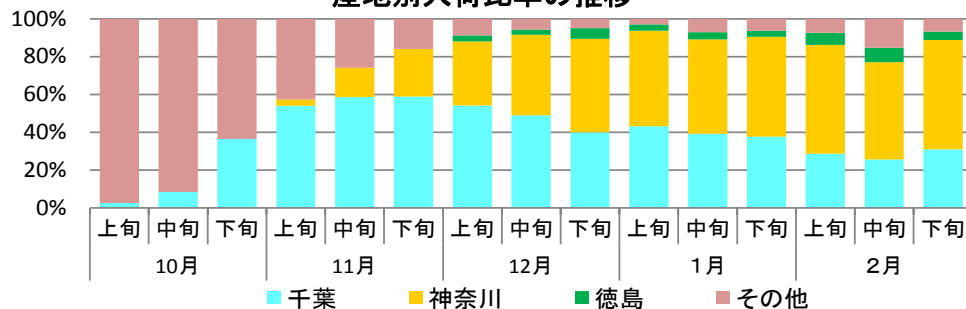
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



資料：東京青果物情報センター

3. 平成25年産たまねぎの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
たまねぎ (11～4月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、前年並みの見込み。 ・生産状況は、今後の供給の主力である北海道産が、融雪遅れと降雨等による定植遅れ、肥大期の高温と干ばつ、生育期間の短縮により作柄が悪く、小玉傾向となった。9月末に収穫が終了し、今後は貯蔵物の出荷となる。 ・出荷量は、11月から4月までの期間を通じて前年を下回る見込み。 <ul style="list-style-type: none"> ・加工・業務用野菜においては、国内産の作柄が悪く小玉傾向であるため、中国や米国からの輸入が増加する見込み。 ・価格は、北海道産が小玉傾向であり、出荷量が減少するため、安値であった前年を上回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>11月及び12月は、主産地の北海道産が生育期の低温、少雨等の影響から小玉傾向となり、前年に比べてかなりの入荷減となった。1月及び2月は、北海道産は前年を下回る入荷となるも、静岡産が生育順調で前年に比べて大幅に増加したこと、また、輸入物の中国産(前年同期比(1～2月):290%)、米国産(同:1001%)と多かったことから、1月は前年に比べてやや入荷減となり、2月は前年に比べてかなり入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回るも、平年をわずかに上回った。</p> <p>(11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:94)</p> <p>(価格)</p> <p>11月から1月までは、主産地の北海道産が少なかったことに加え、加工筋から需要もあったことから、前年及び平年を大幅に上回った。2月は、1月下旬から横ばいとなり落ち着いてきたものの、前月までの高値の状況を受け、前年及び平年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。</p> <p>(11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:165)</p>	

(参考1) 平成25年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

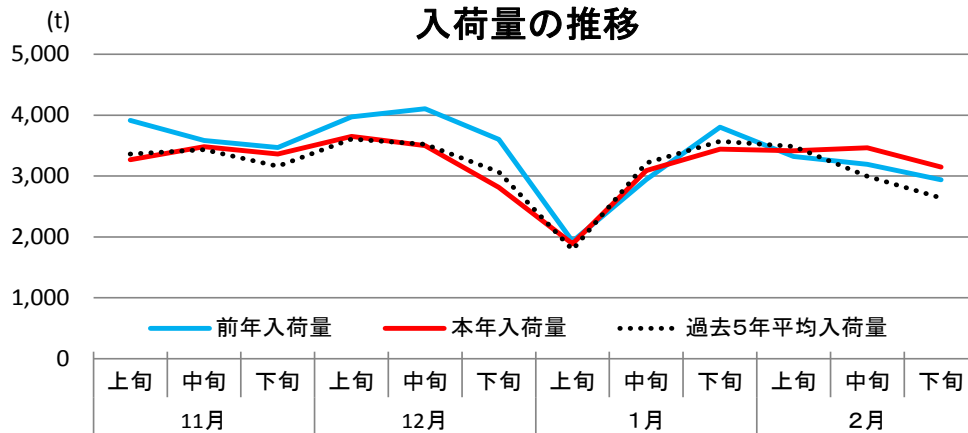
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	84	97	97	92	85	78	98	105	91	103	109	107	94
	92			85			97			106			
過去5年平均比	97	101	106	101	99	92	106	96	96	98	116	119	102
	102			98			98			110			

卸売価格対比

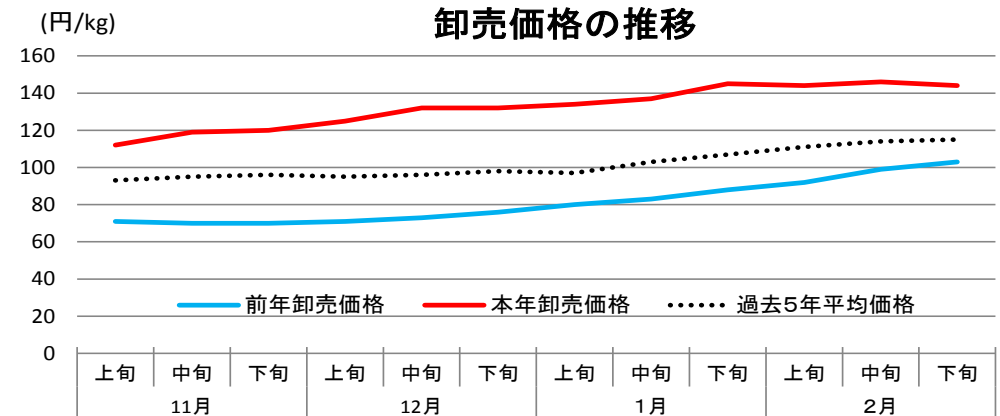
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	158	170	171	176	181	174	168	165	165	157	147	140	165
	167			177			167			148			
過去5年平均比	120	125	125	132	138	135	138	133	136	130	128	125	131
	123			134			136			128			

(参考2) 平成25年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

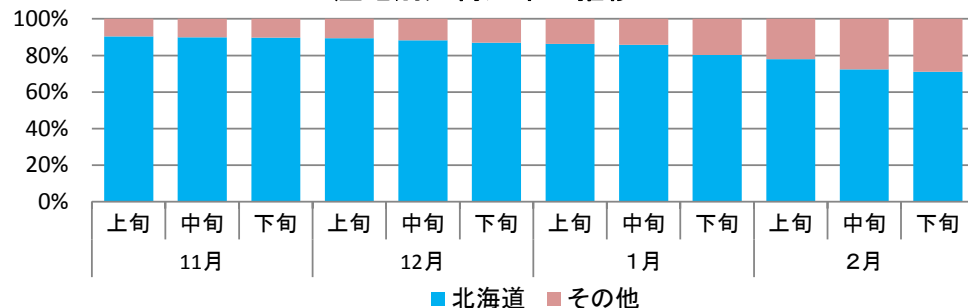
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



資料：東京青果物情報センター

4. 平成25年産冬にんじんの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
冬にんじん (11～3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、千葉は前年並み、愛知は前年をわずかに下回り、長崎は前年をやや上回る見込み。 ・生産状況は、千葉及び長崎は、播種後の少雨、干ばつ等の影響があり、やや遅れが見られ、愛知は、順調な生育となる見込み、 ・出荷量は、台風の影響から主産地の正品率が低いこともあり、11月から3月までの期間を通じて前年を下回る見込み。 ・外食事業者からの需要が少ない中で、中国産の品質、規格が良いことから輸入品に一定の需要があり、国内の価格への影響は少ないことが見込まれる。 ・価格は、生育の遅れ、台風による冠水の影響等があり、出荷量が減少するため、11月は安値であった前年を上回り、12月以降は、平年より高かった前年並みとなる見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>11月は、産地の切り替わりとなり、北海道産が早めに切り上がったこと、後続の千葉産が夏場の高温と10月の台風により生育が遅れたことから、前年及び平年に比べてかなりの入荷減となった。12月は、千葉産は生育期の少雨等の影響から小ぶりとなったため、前年に比べてやや入荷減となった。1月は、千葉産は引き続き小ぶり傾向であるが、前年が低温と降雪により少なかったため、前年に比べてやや入荷増となった。2月は、千葉産は低温による生育遅延に加え、降雪による作業遅れにより、中旬まではかなり少なかったため、前年に比べてやや入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともにやや下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 96)</p> <p>(価格)</p> <p>11月は、主産地の生育遅延等で入荷がかなり少なくなり、前年及び平年を大幅に上回った。12月は、生育期の低温等で小ぶりとなり、低温で少なかった前年をやや下回る入荷となったことと、年末需要もあり、前年及び平年を大幅に上回った。1月は、天候は回復するも引き続き小ぶりのため、入荷は降雪等で少なかった前年をやや上回ったものの、価格は前年をやや上回り、平年を大幅に上回った。2月は、降雪による収穫作業の遅れから、再び入荷が前年を下回ったため、前年及び平年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 125)</p>	

(参考1) 平成25年産冬にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

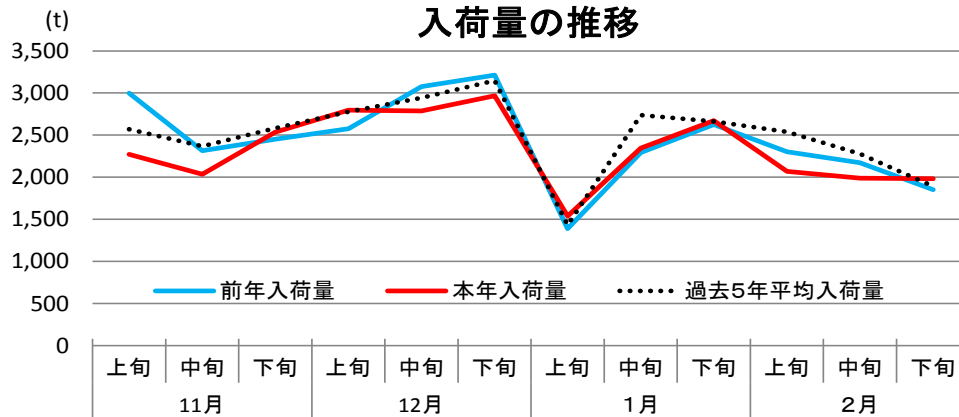
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	76	88	103	108	91	92	111	102	102	90	92	107	96
	88			96			104			95			
過去5年平均比	88	86	98	101	95	94	107	86	100	81	87	105	94
	91			96			96			90			

卸売価格対比

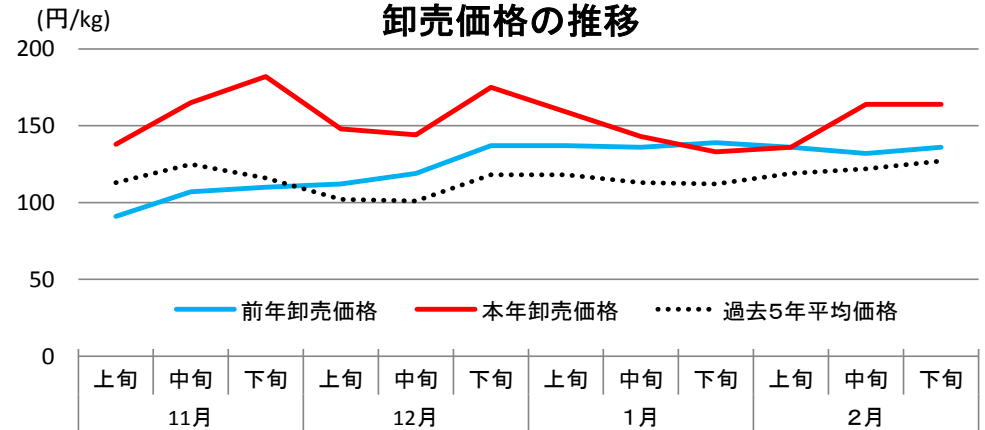
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	152	154	165	132	121	128	116	105	96	100	124	121	125
	159			126			104			114			
過去5年平均比	122	132	157	145	143	148	135	127	119	114	134	129	134
	137			146			127			125			

(参考2) 平成25年産冬にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)

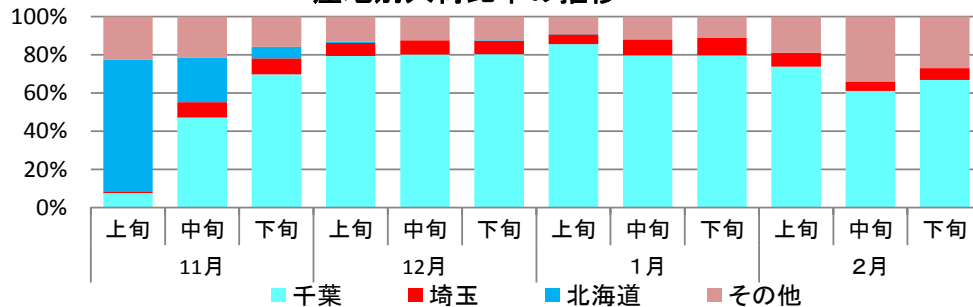
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



資料：東京青果物情報センター

5. 平成25年産秋冬はくさいの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
<p>秋冬はくさい (10～3月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、茨城及び兵庫は前年並み、愛知は前年をやや下回る見込み。 ・生産状況は、茨城及び愛知は、台風の影響に伴う冠水等により生育の遅れや病気、根傷みが発生している。兵庫は、定植が順調であった。 ・出荷量は、11月は台風の影響もあり前年を下回り、12月から3月までは前年並みとなる見込み。 <ul style="list-style-type: none"> ・漬物においては、2012年の夏のはくさい浅漬けによる腸管出血性大腸菌O157の食中毒等により減少していた需要が回復傾向となっている。 ・価格は、11月は生育の遅れによる小玉傾向や病害等の発生により出荷量が減少するため、安値であった前年を上回り、12月から2月は高値であった前年並みとなり、3月は兵庫の生育が順調と見込まれるため、前年並みとなる見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>10月は、長野産は生育順調で、茨城産も降雨の影響で品質低下が懸念されるも、下旬から本格出荷となり、前年に比べてかなりの入荷増となった。11月は、産地の切り替わりとなり、後続の茨城産は上旬まで台風、曇雨天の影響で少なくなったが、その後回復して前年に比べてかなりの入荷増となった。12月は、茨城産は11月中旬以降の低温により小玉傾向であったが、生育は順調のため、前年並みとなった。1月は、茨城産は前月に引き続き小玉傾向であったが、中旬は降雪で少なかった前年を大幅に上回ったため、前年に比べてやや入荷増となった。2月は、茨城産が上旬は降雪で少なくなるも、兵庫産が生育順調で入荷も前年を上回ったため、前年に比べてやや入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年をやや上回り、平年をかなり上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:104)</p> <p>(価格)</p> <p>10月は、前年が8月に発生したO157の影響で安かったこと、気温の低下とともに鍋需要が出始めたことから、前年を大幅に上回るも、平年並みとなった。11月及び12月は、気温の低下とともに需要が増え、前年の価格が安かったこともあり、前年及び平年を大幅に上回った。1月及び2月は、気温の上昇とともに需要も落ち着いたため、低温の影響で高値であった前年を下回るも、平年を上回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:120)</p>	

(参考1) 平成25年産秋冬はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

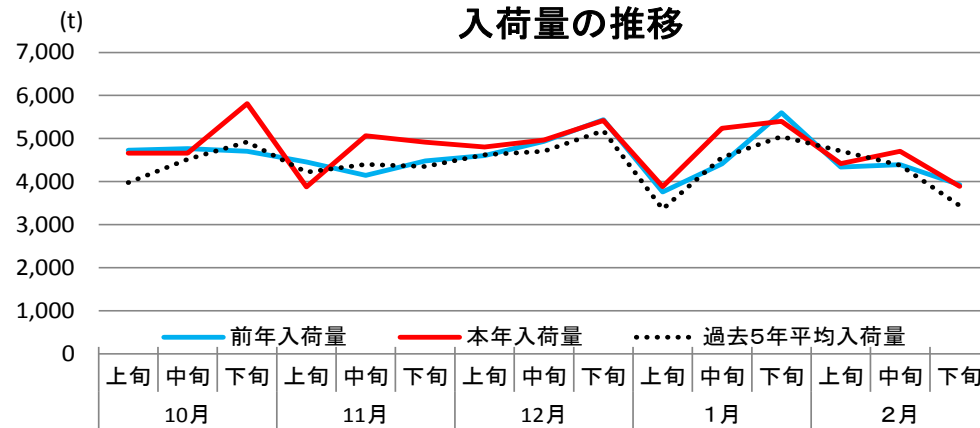
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	98	98	124	87	122	110	104	101	100	103	119	96	102	107	99	104
	107			106			101			105			103			
過去5年平均比	117	103	118	92	115	113	104	106	105	115	115	107	94	107	113	108
	113			107			105			112			104			

卸売価格対比

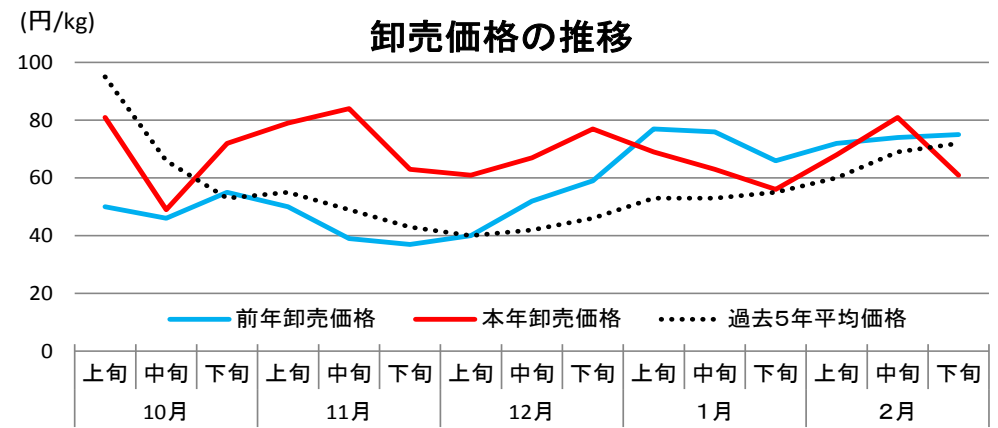
	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	162	107	131	158	215	170	153	129	131	90	83	85	94	109	81	120
	136			179			135			86			96			
過去5年平均比	85	74	136	144	171	147	153	160	167	130	119	102	113	117	85	123
	99			153			160			115			106			

(参考2) 平成25年産秋冬はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)

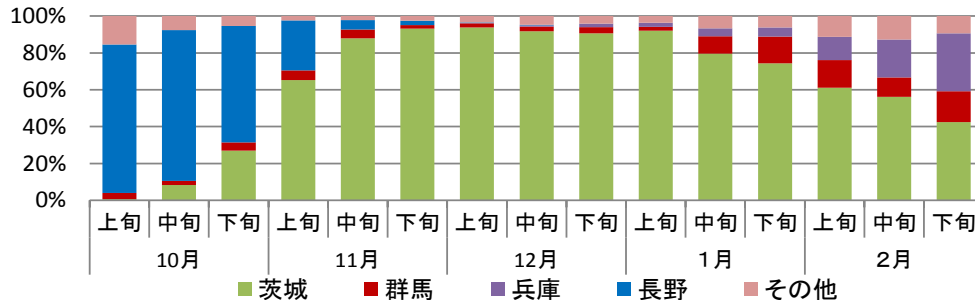
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



資料：東京青果物情報センター

6. 平成25年産の冬レタス需給・価格の実績

	前回の委員会(25.11.6)での見通し	実績(2月下旬時点)	備考
冬レタス (11～3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、茨城及び兵庫は前年をやや下回り、静岡及び香川は前年並みの見込み。 ・生産状況は、茨城は、台風の影響に伴う外葉の痛み等により小玉傾向となっているが、今後は品質が改善されていく見込み。静岡は順調な生育となっている。兵庫は、年内出荷分は順調な生育となっているが、年明け出荷分は、降雨の影響により定植がやや遅れている。香川は台風、降雨により、定植が遅れている。 ・出荷量は、11月は台風の影響から前年を下回り、12月から2月は低温で出荷が少なかった前年を上回り、3月は茨城産が生育良好で出荷が多かった前年を下回る見込み。 ・加工・業務用野菜においては、茨城産が小玉傾向等となっており、通常の歩留まりが確保できないため、台湾からの輸入物への需要が強くなっている。また、外食においては、結球レタスから非結球レタスのサニーレタス、グリーンリーフレタスへの需要の変化が一部みられる。 ・価格は、11月は主産地である茨城で小玉傾向等となり出荷量が少ないため、高値であった前年並みとなり、12月及び1月は主産地である静岡等の生育が順調であるため、高騰した前年を下回り、3月は安値であった前年を上回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>11月は、茨城産が台風の影響で外葉等の痛みにより、小玉傾向となり上旬まで少なかった。また、兵庫産も夏場の高温と少雨の影響から定植が遅れて中旬まで少なかったが、下旬には回復したため前年に比べてかなりの入荷増となった。12月は、静岡産及び兵庫産が11月中旬の低温から小玉傾向となり、低温等の影響で少なかった前年に比べてやや入荷増となるも、平年をかなり下回った。1月は、静岡産は小玉傾向であるも少なかった前年を上回り、兵庫産も下旬から回復したため平年並みの出荷となったが、今年以上の低温からかなり少なかった前年に比べて大幅な入荷増となるも、平年並みとなった。2月は、静岡産及び香川産は、1月上旬から2月上旬の気温の上昇で生育が進み、上旬は前年をかなり上回ったため、前年に比べて大幅な入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり上回り、平年を並みとなった。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 112)</p> <p>(価格)</p> <p>11月は、茨城産が小玉傾向のため、加工・業務用需要が活発になったこともあり、前年及び平年を大きく上回った。12月は、主産地が低温等の影響で小玉傾向となったが、前年が低温、曇天の影響から入荷が平年に比べかなり少なかったため、前年を大幅に下回るも、平年を大幅に上回った。1月は、主産地の生育も回復し平年並みの出荷となったため、低温の影響で入荷の大幅減で高値であった前年を大幅に下回るも、平年並みの価格に落ち着いた。2月は、静岡産及び香川産が気温の上昇で生育が進んだため、平年を上回る入荷となり、前年及び平年を大きく下回った。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回り、平年をかなり上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 86)</p>	

(参考1) 平成25年産秋冬レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

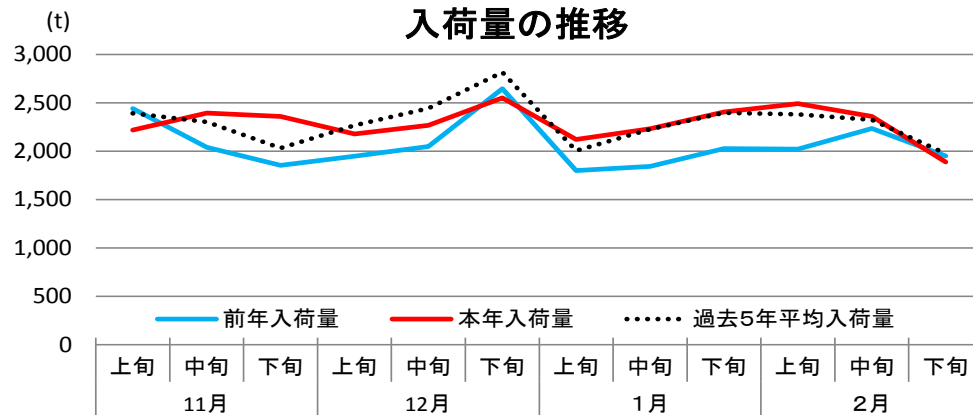
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	91	117	127	112	111	96	118	121	119	123	106	97	112
	110			105			119			114			
過去5年平均比	93	104	116	96	93	91	106	100	100	105	102	96	101
	104			93			102			106			

卸売価格対比

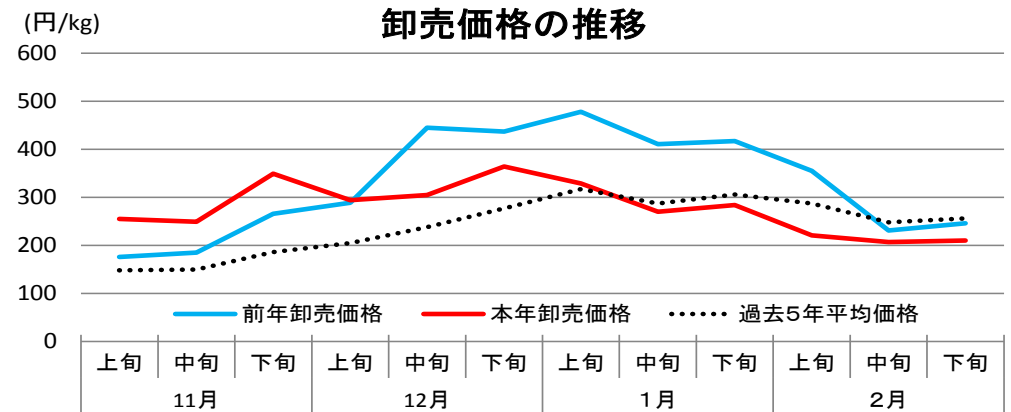
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	145	135	131	102	69	83	69	66	68	62	90	85	86
	139			82			68			78			
過去5年平均比	172	166	188	143	128	131	104	94	93	77	83	82	115
	178			133			97			82			

(参考2) 平成25年産冬レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)

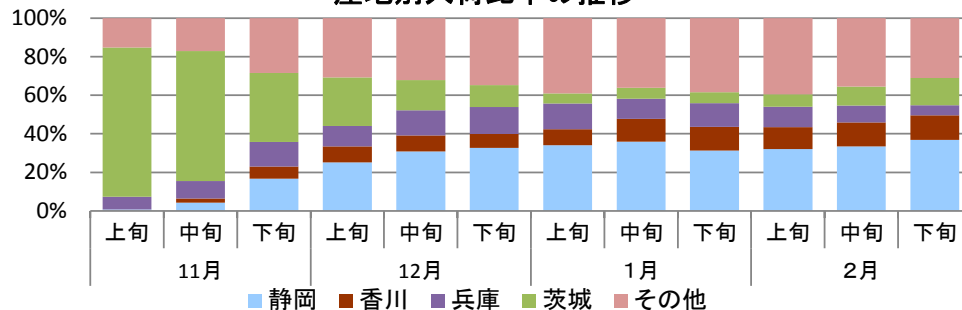
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



資料：東京青果物情報センター